

会員の皆様

いかがお過ごしでしょうか。

関東は梅雨明けが6月27日に気象台から発表されました。暑い夏になりました。日本中で気温が上がっています。健康に気を付けましょう。

過日、「大河への道」という映画を見ました。千葉県香取市が同市を盛り上げるために、実際にしたかどうかは把握していませんが、香取市と縁のある伊能忠敬をNHKの大河ドラマに取り上げさせようと企画し、展開させたという設定でした。その現代における展開が、見る者にはいつのまにか、200年前に佐原で伊能忠敬が中心となって作製した日本全土の実測地図「大日本沿海輿地全図」完成への展開に昇華するものでした。困難なことを少しずつ前に進める作業が、命をかけた作業とともに描かれていました。

伊能忠敬を中心とする者達の活動が、ヒトの本当の行動メカニズムを探求し、それに適った技法と社会制度を支える研究をするという条件反射制御法学会の活動に似ていると感じ、また、伊能忠敬旧館を私が何度も訪れたことがあるので身近に感じ、「大河への道」には強く勇気づけられたのでした。

さて、この号には私が主治医となった患者さんによる手記を掲載します。その方は治療の経過を詳細に書いてお送りくださったので、それを3部に分けて皆さんにご覧いただきます。その一つめが今回のものです。

その方は、私の病棟に入院して条件反射制御法を受けた後、維持作業を続け、欲求を全く感じず、覚醒剤使用から長期に離れています。

平井慎二

CRC Tを受けた方からの報告

覚醒剤を乱用する生活から立ち直れました。(その1)

— 逮捕から制御刺激まで —

A. G.

私は幻聴の「自首すれば刑が軽くなるぞ」という声をきっかけに110番通報を自らして、逮捕され、A県警N警察署に留置されました。逮捕5日目頃、会社の取締役が面会にやってきました。懲戒免職は間違いないと思っていたところ、こ

れまでの会社への貢献を認められ、執行猶予が得られた際には復職させてもらえる事になりました。信じられない幸運な事でした。

前回の覚醒剤自己使用での逮捕から10年であり、「刑の一部執行猶予」という制度もでき、全部執行猶予を付与されるか微妙な状況だった為、知人のつてを使い、家族が私選弁護士を2名つけてくれました。

母が当時K病院にて条件反射制御法（以降、CRCT）をアルコール使用障害の患者に対して行っていた私の昔の主治医W医師に相談したところ、覚醒剤使用障害の治癒には下総精神医療センターに入院してCRCTを受ける事がベストであると言われ、弁護士に相談しました。その弁護士事務所でも以前も下総に入院させた被告人がいたことから、下総に入院する段取りをスムーズにとる事が出来ました。

保釈金300万を家族が工面してくれ、起訴後、保釈を得てその足で下総に向かいました。私の覚醒剤使用はもはや病気であると思っていたので、治癒させてくれる病院が見つかりうれしかったです。

父に付き添ってもらい下総に着き、採血をした後、平井先生の間診がありました。平井先生との最初の出会いです。平井先生から「世界を一緒に変えよう」と言われ、先生の自信に「この先生についていけば治る」と思いました。

病院での生活は不安でしたが、担当の看護師さんが必死にフォローしてくれ、不安は無くなりました。他の患者も皆、入れ墨が入っていたりして最初は怖かったのですが、徐々に慣れました。

まずは入院してすぐCRCTに関するガイドブックを渡され、テストがあるので覚えるように言われました。ガイドブックを見て目から鱗が落ちました。人間には第一信号系と第二信号系があり、第一信号系にできた後天的な反射の連鎖の作動が覚醒剤の反復使用の原因であると知りました。覚醒剤の薬理作用で条件付けられた人の覚醒剤使用は、第一信号系が司るものであり、自由な思考によるものではないこと、また、覚醒剤使用を司る反射を抑制することが治療のメインだと知りました。理にかなっており、この治療法なら必ず治ると思いました。

テストは「意思」「反省」「後悔」といった語句の入った文章は誤りなので、消去法で簡単に合格しました。

その後、おまじない（制御刺激）の設定がありました。

私は覚醒剤の他に危険ドラッグを摂取する行動も条件付けられていた事もあった為、おまじないは（手を太ももの上に載せて）「私は今」（親指を立てて）「シャブとドラッグを」（手を握り締めて）「やれない」（手をもう一度握り締めて）「大丈夫」という内容になりました。

おまじないを設定し、覚醒剤を使用できない環境で覚醒剤を使用できないことを言葉にする事に不思議な感覚を覚えました。その後、しばらくは、不思議な感覚を毎回感じました。欲求を感じる事が無かったので具体的な反応はありませんでした。動作が自分にとって不自然なものなので、なかなか慣れないなあと思

いました。おまじないを 200 回近く行った頃には自然とおまじないができるようになり、不思議な感覚もなくなりました。

入院して 1 か月が経った頃、覚醒剤を使用した日の作文を書くことになりました。書いていると、また使いたい気持ち、ゾクゾクした気持ちになりました。しかし、おまじないの言葉を頭で思い浮かべると不思議な気分になり、覚醒剤を使いたいという気持ちが一気に吹っ飛びました。おまじないの効果を実感し、動作なしで言葉を頭の中で唱えるだけでもある程度欲求が消える効果を感じました。

(2022 年 6 月 8 日寄稿)

事務局からのお知らせなど

理事会の報告

2022 年 6 月 5 日に理事会が開催されました。また、その後にもメールでの意見交換がありました。検討された事項、決定した事項を報告します。

1. 決算報告について

2021 年度の決算報告が事務局長からなされた。理事による確認の後、監事が確認して、後の総会での報告時期を予定することとなった。

2. 第 11 回学術集会のプログラムについて

「薬物乱用に対応する者の役割と連携」というタイトルで、刑事司法体系と治療体系を連携させる∞連携と名付けた方法について平井慎二が講演し、それを基に「∞連携を精査する」というシンポジウムで次の正当性や方法を検討することが決定した。

- 1) 薬物乱用自体に対する刑罰
- 2) 治療や訓練の義務化と怠りに対する刑罰
- 3) 検挙前の治療や訓練の怠りに対する刑罰
- 4) 患者を通報せず、法の抑止力を利用する態勢

3. 監事の辞任について

会議の後に宮田桂子氏から辞任の申し出があり、それを受け入れた。

条件反射制御法に関する学術集会・研究会のご案内

1. 学術集会

条件反射制御法学会 第11回学術集会

日 程：2022年9月10日（土）

テーマ：薬物乱用に対応する者の役割と連携

2. オンライン研究会

第4回研究会

テーマ：海獣類における問題行動への対応

報告者：勝俣浩（鴨川シーワールド館長）

日 時：2022年7月11日（月）19～21時

申込受付は終了していますが、勝俣浩氏による抄録等はこちらでご覧いただけます。



第5回研究会

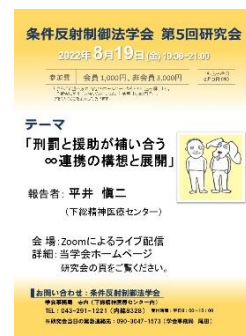
テーマ：刑罰と援助が補い合う∞連携の構想と展開

— 治療側の者は薬物乱用を通報するべきか否か？ —

報告者：平井慎二（下総精神医療センター医師）

日 時：2022年8月19日（月）19～21時

現在、申込受付中です。



条件反射制御法に関する研修会・実地研修等のご案内

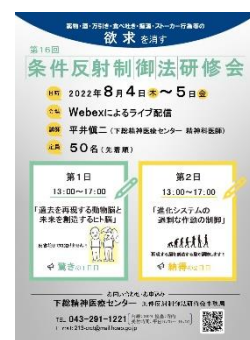
- 第16回条件反射制御法研修会（下総精神医療センター主催）

第1日：2022年8月4日（木）13：00～17：00

第2日：2022年8月5日（金）13：00～17：00

詳細：Webexによるライブ配信

申込は終了しました。



・条件反射制御法実地研修（下総精神医療センター主催）

第77回 2022年 7月25日(月)～ 7月29日(金) 空き2枠

第78回 2022年 8月22日(月)～ 8月26日(金) 空き1枠

第80回 2022年 11月14日(月)～ 11月18日(金) 空き1枠

第82回 2023年 1月23日(月)～ 1月27日(金) 空き2枠

第83回 2023年 2月13日(月)～ 2月17日(金) 空き1枠

受付済の予定は掲載を省略します。

下総精神医療センターのHP内、研修情報をご確認ください。

発行

条件反射制御法学会事務局

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 NPO 法人アパリ内

<https://crct-mugen.jp> crct.mugen@gmail.com

TEL:090-3047-1573 FAX:050-3458-0214